



撮影地
西伊豆・
土肥沿岸

偽の目で威嚇

チヨウウやガのなかには、見事な眼状斑を持つものがある。いわゆる目玉模様と呼ばれるものだ。

つかニのメガネクラツパが生息する。彼らはふだん砂底にもぐっているが、海水が濁っていると

捕食者は獲物の目がどこにあるのかわかを見極めて狙ってくるので、本当の目を隠すことが結

伊豆の
海から

きなど、砂上を移動する姿をよく目にする。近づいてみると、甲羅とハサミの

果的に身の安全につながる。偽の目をパッと現すとが、敵への威嚇にもなる。

脚に、本当の目より大きく目立つ偽眼がはっきりと現れている。

実は海にも、偽の目を持つ

危険を感じると、大きな

ハサミ脚をぴったりと甲羅に合わせ、半球のように体を縮める。巻き貝を捕食するときは、このハサミ脚を巧みに使う。右手のハサミには突起があつて「缶切り」になり、左手で貝を回す。

ハサミで顔を隠しているような姿から、恥ずかしがり屋さんとも呼ばれ、英名では「ボックスクラブ（箱ガニ）」というそうだ。偽の目で敵を欺き、ハサミ脚で獲物を捕獲する知恵者なのだ。

（水中写真家・伊藤勝敏）